

最悪のシナリオの検討について

堀越和夫^{1*}、川上和人²

Discussion on the worst conservation scenarios

Kazuo HORIKOSHI^{1*} & Kazuto KAWAKAMI²

1. 小笠原自然文化研究所（〒100-2101 東京都小笠原村父島字西町）
Institute of Boninology, Nishimachi, Chichijima, Ogasawara, Tokyo 100-2101, Japan.
2. 森林総合研究所（〒305-8687 茨城県つくば市松の里1）
Forestry and Forest Products Research Institute, 1 Matsunosato, Tsukuba, Ibaraki 305-8687, Japan.
* hori@ogasawara.or.jp (author for correspondence)

要旨

保全目標に基づいて提言された行動計画が全て実行されたとしても、母島列島のオガサワラカラヒワ個体群の減少が止まらない場合には、保全対策のシナリオを大幅修正する事態が想定される。別のシナリオ案と、それに移行する判断基準について、生息域内と生息域外の専門家が事前に検討した。域内において全数捕獲し、それを域外飼育のファウンダーに利用するなどの案があげられた。シナリオ移行の判断基準は、飼育技術の開発スケジュール、少数になったときの捕獲効率の低下などの点において不明瞭な前提事項が多く、具体的な決定はできなかった。

キーワード

個体群減少、シナリオ移行の判断基準、保全シナリオ

1. 検討の目的

この3年間に、母島列島のオガサワラカラヒワ個体群の減少が止まらない最悪のシナリオを想定し、生息域内と生息域外の専門家が、現時点の情報に基づいて別の保全対策シナリオを事前検討することを目的とした。

2. 参加者

2020年12月17日に、生息域内と生息域外グループから以下の専門家が出席し、論議した（所属は2020年12月現在）。

堀越和夫 NPO 法人小笠原自然文化研究所

川上和人	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
川口大朗	一般社団法人 Islands care
富田恭正	東京都恩賜上野動物園 副園長
米田久美子	CPSG Japan 野生生物保全計画専門家グループ
南波與之	一般社団法人日本森林技術協会
橋本琢磨	一般財団法人自然環境研究センター

3. 議論概略

母島列島の個体群は極度に減少しており、今後、様々な対策を行ったとしても自然状態では回復できない可能性は考えられる。このまま個体群が減少を続ける場合には、現時点では優先される生息域内での保護対策を諦め、全個体の捕獲と活用などを含む、様々な対応シナリオを事前に検討しておく必要性が確認された。

シナリオ変更を移行する事態は、母島生息群が5年以内に回復傾向を示さず、生息数X羽まで減少した時点とすることが提言された。

複数のシナリオ案が論議された。

シナリオ A (前提条件：飼育技術が確立済み)

母島列島生息群の全個体を捕獲保護して、域外飼育のファウンダーとする。

シナリオ B

南硫黄島生息群が安定しているならば、母島列島生息群は、そのまま推移を見守る。

現時点では、飼育下の繁殖技術の開発状況および健全な域外個体群を創出するためのファウンダー数や、域内で少数個体になった場合の捕獲効率の低下など、不明確な前提条件が多いため、具体的な判断基準のX羽の数値は提言できなかった。

この検討結果を生息域内ワーキンググループに説明し、意見を求めたところ、飼育技術が確定した時点で再議論、域外飼育に完全移行しても最後まで諦めない保護増殖の推進、保護個体の南硫黄島への移植など多様な提案項目が寄せられた。生息域内ワーキンググループとしては、この論議を進めるうえでシナリオを判断するための様々な前提条件を整理する必要があることが提言された。

行動計画

更なる検討は、2021年度に立ち上げ予定の環境省の「オガサワラカワラヒワ保護増殖検討会」に依頼することとした。

SUMMARY

Discussion on the worst conservation scenarios

Kazuo HORIKOSHI^{1*} & Kazuto KAWAKAMI²

1. Institute of Boninology, Nishimachi, Chichijima, Ogasawara, Tokyo 100-2101, Japan.
 2. Forestry and Forest Products Research Institute, 1 Matsunosato, Tsukuba, Ibaraki 305-8687, Japan.
- * hori@ogasawara.or.jp (author for correspondence)

Even if all recovery actions were implemented, there is a chance that the Ogasawara Greenfinch population will continue to be declined. In such a case, the conservation scenarios are need to be modified. The other scenarios and criteria for scenario shifting were discussed by participants specialized both *in-situ* and *ex-situ*. One of the scenario was a case that all birds will be captured and used as funders in *ex-situ*. Because there are many unclear matters such as a technical developments of captive breeding and a decrease on capture rates of small numbered birds in wild, the shifting criteria was not determined.

Key words

Conservation scenarios, Criteria for scenario shifting, Population declines

